

指定棚田地域振興活動計画

作成主体の名称：丸山千枚田協議会

1 指定棚田地域振興活動を通じて保全を図る棚田等に関する事項(棚田等の名称及び範囲)

丸山千枚田

範囲については、別添 1 のとおり

2 指定棚田地域振興活動の目標（令和 6 年度まで）

(1) 棚田の保全

○耕作放棄された田の復元・作付け

- ・耕作放棄された田を 7 枚－19a 復元し、作付けする。

○耕作放棄の防止

- ・丸山千枚田における耕作放棄率 24.7%（田の枚数で計算）から 24.2%とする。

○担い手の確保

- ・丸山千枚田保存会の会員数（実働人数）を 12 名から 15 名に増加させる。

○付加価値の向上

- ・7.2ha 中 4.6ha の田において、現在の『あきたこまち』から、三重県のオリジナル品種である『なついろ』へと転換させる。

○生産性の向上

- ・ドローンによる農薬空中散布の試験を実施し、スマート農業化を推進させる。

(2) 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

○農産物の供給の促進

- ・棚田米の販売量を 3～4t から 4～5t に増加させる。

○自然環境の保全・活用

- ・さまざまな年代の方を対象とした体験農作業等を年 2 回実施する。
- ・小学生を対象とした自然観察会を年 1 回開催し、年間 30 人の参加者を確保する。
- ・定期的に侵入防止柵を巡回し、破損個所があれば早急に補修を行うことで、有害鳥獣の侵入回数を年間 50 回以上から 30 回以下へと低減させる。

○良好な景観の形成

- ・0.5ha で新たな景観形成作物を作付けする。
- ・水車小屋を復元し、のどかな農村風景の醸成を図る。

○伝統文化の維持・継承

- ・畦塗り、手植え、稲架掛け、虫おくりといった棚田で受け継がれてきた伝統

的農法を、オーナー制度や体験イベントを通じて次代に継承する。

(3) 棚田を核とした棚田地域の振興

○棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興

- ・棚田オーナーを111組から120組、守る会会員を23組から30組に増加させる。
- ・棚田で農村交流体験イベントを継続して年間6回開催し、年間延べ3,000人の参加者を確保する。(畦そり、畦塗り、田植え、虫おくり、稲刈り、収穫祭)

○棚田を観光資源とした地域振興

- ・棚田周辺の文化的史跡(赤木城跡、清順上人顕彰碑など)や観光施設(鬼ヶ城など)、地域の行事・慣習、棚田文化(稲刈り時のはさかけ)、イベント(紀和の火祭り、紀和ふるさとまつり)等に係る情報を丸山千枚田HP及びSNSで年間12回以上発信する。
- ・『丸山千枚田の虫おくり』において、毎年1,000人を超える観光誘客を維持する。

3 計画期間 認定の月～令和7年3月

4 各年度において行う指定棚田地域振興活動の内容及び実施主体に関する事項

(1) 指定棚田地域振興活動の内容

以下の指定棚田地域振興活動について、別添2の工程表に基づき実施することとする。

①棚田の保全

○耕作放棄された棚田の復元・作付け

- ・令和元年度に18枚50aを復元し、令和2年度に15枚45a、令和3年度に3枚5aを作付け開始した。令和3年度に2枚5a、令和4年度に5枚14aを復元し、それぞれ翌年度から作付けを開始する。令和元年度からの復元、作付けの合計は、25枚69aとなる。

○耕作放棄の防止

- ・丸山千枚田保存会及び農業者を中心に農地の管理を適切に行い、耕作面積を維持し、耕作放棄地の新たな発生を防止する。

○担い手の確保

- ・保全作業の中心となる丸山千枚田保存会の会員を市内外から募集し、実働人数15人を確保する。
- ・丸山千枚田での農作業体験をとおして、参加者に生物の多様性や伝統文化などの棚田の重要性を体感してもらい、保全に対する理解を深めてもらうこと

で、将来の担い手となる人材の育成に取り組む。

○付加価値の向上

- ・千枚田で作付けするコメの半分以上を三重県オリジナル品種である『なついろ』に転換する。

○生産性の向上

- ・ドローンによる農薬空中散布の試験を実施し、実際の活用に向けて効果や問題点を検証する。

②棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

○農産物の供給の促進

- ・令和4年度に棚田米専用のECサイトを構築し、棚田米としての販売を強化する。
- ・棚田米のブランディングとして、キャッチコピーや丸山千枚田キャラクターを使用したパッケージの使用、天日干しに拘った『丸山千枚田の天日干し米』の販売などブランド要素の向上を進めていく。

○自然環境の保全・活用

- ・様々な年代を対象に、田の草取り、畦の草刈り、わら切りなどをオーナーでなくても参加可能な体験農作業として実施する。
- ・丸山千枚田はメダカ、タガメ、ゲンゴロウ、コモウセンゴケ、イチョウウキゴケ、アイナエ等の貴重な動植物の生息場所となっており（令和3年の調査結果より）、こうした生物多様性を活かし、熊野市内の小学生を対象に自然ふれあいイベント（自然観察、里山ウォーキング等）やエコツアーを実施する。
- ・鳥獣被害対策として電柵の電線が切れた場合の補修や捕獲罠の設置などを実施する。また、県、市などの獣害対策関係者を講師に招き、勉強会を開催する。

○良好な景観の形成

- ・東屋周辺の斜面にフジバカマを植栽し、アサギマダラの飛来する棚田とする。
- ・東屋及び大石周辺の水稲の作付けが困難な農地で菜の花、そば、ひまわりなどの景観作物を作付けする。
- ・令和4年度に千枚田内を流れる小川沿いに水車小屋を復元する。
- ・経年化により滑り止め機能が低下しつつある遊歩道の再舗装や、東屋など木造建築物のペンキ塗りを随時実施する。

○伝統文化の維持・継承

- ・「田植えの集い」「稲刈りの集い」といったオーナー対象のイベントを実施する。
- ・一般も含め広く参加を呼び掛ける「虫送り行事」等を通じて伝統文化の継承を広く啓発する。
- ・大学等特定の団体と保存会との協働による栽培管理を通じて伝統農法の伝達をする。

③棚田を核とした棚田地域の振興

○棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興

- ・新たなオーナーイベント（餅つき大会、水源ウォッチングなど）を検討し、実施する。
- ・定期的に水稻の生育情報の発信やオリジナルカレンダーの作成などを実施することでオーナーの価値を高め、口コミでのオーナー数増加を目指す。
- ・丸山千枚田HPやマスコミを通じてイベント情報や様子を発信し、イベント参加人数を維持・増進する。

○棚田を観光資源とした地域振興

- ・丸山千枚田HPに未掲載の棚田周辺の文化的史跡（清順上人顕彰碑）や観光施設を掲載又はリンクの貼付けを行っていく。また、「紀和の火祭り」「紀和ふるさとまつり」「熊野古道トレイルランニングレース」といった地域イベントの開催情報を発信し、開催風景を掲載していく。
- ・虫おくりの観光誘客維持・増加に向けて、丸山千枚田HPやマスコミを通じて情報発信する。また、虫おくりツアーの催行数を増やすため市内の旅行業者との協力関係を強化していく。
- ・（一財）熊野市ふるさと振興公社と連携して「棚田キャンプ」など新たな取組を実施する。

（２）指定棚田地域振興活動の実施主体

上記（１）に掲げる指定棚田地域振興活動の実施主体は、主に下記５の丸山千枚田協議会の参加者である。

５ 指定棚田地域振興協議会に参加する者の名称又は氏名

丸山千枚田協議会は、三重県、熊野市、（一財）熊野市ふるさと振興公社、丸山千枚田保存会、丸山千枚田の虫おくり実行委員会で構成。

６ その他指定棚田地域振興活動に関し必要な事項